

自動車地球温暖化対策実施方針

《 1 大規模荷主 》

事業者名	株式会社DNPデータテクノ	事業所名	蕨工場				
取組措置		具体的取組措置			R3	R4	R5
01	荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 (01) 二酸化炭素排出量の把握及び課題等の抽出	業務を委託している事業者から輸配送実績報告を受けている。燃料法、燃費法、トンキロ法による計算式を用いて二酸化炭素排出量実績を、改正省エネ法の定期報告書の基準で集約把握している。二酸化炭素排出量については、半期ごとに実施されるマネジメントレビューで報告し、課題の抽出を行っている。			○	○	○
01	荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 (02) 貨物輸送事業者及び自社関連部門との情報共有及び改善のための取組実施	社内の生産管理部門、輸送管理部門及び輸送の協力会社で連絡会議等を通じて情報を共有し、システムの導入や発注のルール化などCO2削減に向けた取組を検討している。			○	○	○
02	環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 (01) 貨物輸送事業者に対する法令上提出の義務がある運輸部門の二酸化炭素排出量削減に係る計画の提出確認	貨物輸送事業者に対する法令上提出の義務がある運輸部門の二酸化炭素排出量削減に係る計画の提出確認			○	○	○
02	環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 (02) 貨物輸送事業者の環境配慮の確認	委託先選定の際、ISO14001/グリーン経営認証等の取得を考慮し、それら認証の取得状況を確認している。			○	○	○
03	物流拠点の活用による輸配送の効率化 ()	グループ物流子会社(DNPロジスティクス)の持つ全国物流拠点網(拠点)を活用して効率化を図る。			○	○	○
04	積載率の向上による輸配送の効率化 (01) 商品・荷姿・梱包資材の形状の標準化や軽量化等による積載率の向上	製品の性質上梱包形態は現状でほぼ統一されている。軽量化(軽量通い箱化)を推進している。			○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

04 積載率の向上による輸配送の効率化 ----- (02) 混載便の利用や共同輸配送の取組	小口荷物については、積極的に宅配便・路線便を使用している。	○	○	○
04 積載率の向上による輸配送の効率化 ----- (03) 輸送量及び積載率を考慮した適正車種での発注	最大積載量に見合った輸送量の設定に取り組んでいる。また、積載量に見合った車種を幅広く準備できるように取り組んでいる。	○	○	○
05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 ----- (01) 発注時間及び配送時間のルール化	輸送の計画化・標準化に取り組んでいる。	○	○	○
05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 ----- (02) 道路混雑時の輸配送の見直し	道路工事及び車両故障等に伴う道路混雑情報を早期に把握し、迂回道路など適切な指示を行っている。	○	○	○
05 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 ----- (03) 輸送車両の待ち時間の削減	時間指定などある場合は、必要以上に早く到着しないように計画している。また、指定時間に対し30分以上の待機が発生した場合には、引取先に対し対価を請求するなどの措置を講じることで待ち時間の削減を図っている。	○	○	○
07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 ----- (01) 貨物輸送事業者に対する、低燃費車又は省エネルギー支援機器搭載車(以下、「低燃費車等」)の利用要請	貨物輸送事業者に対し、環境配慮要望書を提示し、その中で、低燃費車等の利用を求めている。	○	○	○
07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 ----- (02) 貨物輸送事業者に対する、エコドライブの実施要請	貨物輸送事業者に対し、エコドライブを要請している。	○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (03) 貨物輸送事業者に対する、低燃費車等の利用状況やエコドライブの実施状況の確認、改善に向けた取組の実施</p>	<p>デジタルタコグラフ/ドライブレコーダーの記録によるエコ運転評価(5段階評価)を行い、運行管理者による指導を行っている。</p>	○	○	○
<p>07 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 (04) 周辺道路への路上駐停車及び構内アイドリング防止のための取組</p>	<p>定常運転を行っている納品先については、駐車場の定期借用申請(登録)や定期駐車場契約を行う。また、上記措置が困難な場合はコインパーキングなどを使用して、路上駐車を行わないように指導している。</p>	○	○	○
<p>08 サードパーティーロジスティクスの活用 ()</p>	<p>グループ物流子会社(DNPロジスティクス)の持つ包括物流システム(3PL)で効率化を図る。</p>	○	○	○
<p>09 共同輸配送も視野に入れたモーダルシフトの推進 ()</p>	<p>長距離輸送・納期に余裕がある場合で、かつ一度に大量輸送の場合には鉄道コンテナを使用している。</p>	○	○	○
<p>10 ICTを活用した自動車排出温室効果ガスの削減 ()</p>	<p>デジタル式運行記録計(デジタルタコグラフ)を活用した運行管理システムを導入している</p>	○	○	○